

1. 鎌ヶ谷宿の記憶 ～幕末から明治初年～



鎌ヶ谷宿の旅籠の
家印が入った軒瓦

江戸時代から明治時代の前半にかけて、木下街道沿いの鎌ヶ谷宿では酒造が行われていました。このコーナーでは酒造に関する歴史資料を中心に展示します。



酒を量り売りするのに
使われた店名入り徳利



切った野菜などを入れた切溜(きりだめ)
旅籠で使用した

商いの記録と記憶 in 鎌ヶ谷 近世から近・現代へ

2. 明治・大正・ 昭和戦前の商い

近代といわれる時期を扱います。市域にはまだ店が少なく、隣接する町村の店を利用していました。なお、この時期、市域に開設されていた郵便局の資料も展示します。



「鎌ヶ谷郵便局」
名入りちょうちん

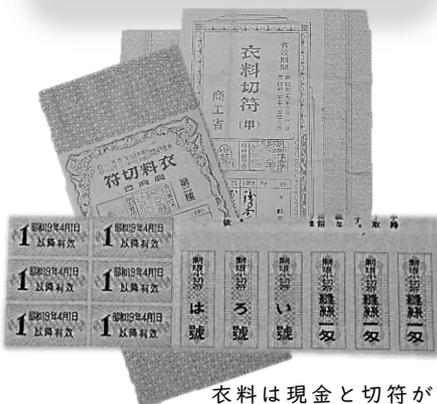


戦前まで使われていた
郵便局の看板

おもに江戸時代末から明治・大正・昭和末年ころまでに市域で展開した「商い」に関わる歴史資料とモノ資料、および昭和の時代に撮影した商店街やお店の写真などで、市域における商売の変遷をたどる展示です。

3. 太平洋戦争 前後の商い

昭和10～20年代の、国策により商業活動が大きく制限されていた時期の歴史資料を展示します。



衣料は現金と切符が
ないと買えなかった

4. 高度経済成長 前後の商業の発展

人口の増大とともに、多種多様な店舗が市内で展開したことを物語る歴史資料や当時配布された広告チラシなどを展示します。



いろいろなチラシ

5. お店の見える 昭和の風景

資料館で収集した写真の中から、昭和30～50年代の店や商店街の様子が分かるものをパネルで展示します。



1960年(昭和35)のふとん店(上)、呉服店(下)

鎌ヶ谷駅前通りの七夕飾り 1975年(昭和50)